

妊婦・乳幼児

※必ず母子手帳をご持参ください。

行事	月日曜	時間	場所	対象	内容	持参品等
健診	乳児健康診査	4月3日(木)	保健センター	平成14年9月生 10月生	診察・問診・計測・健康相談・栄養相談・育児相談	対象児には個人通知します。今までに未受診の方もぜひお受けください。
	1歳6か月健康診査	3月13日(木)		平成13年7月生 8月生	上記のほか、歯科健診・フッ素塗布(対象児のみ)	
	3歳健康診査	4月10日(木)		平成12年1月生 2月生		
相談	ママキッズのすこやか相談	3月4日(火) 4月1日(火)	1 妊乳幼児	計測(乳幼児のみ)・健康相談・栄養相談・歯科相談	妊娠・育児についてのご心配はありませんか？ 歯の相談のある方は、歯ブラシをご持参ください。	
	時間	13:00~14:00		13:00~15:00		
予防接種	個別接種	保健センターで 予防接種手帳 を発行しています。 ●生後3か月を過ぎましたら、手続にお越しくください。「 予防接種と子どもの健康 」をよくお読みください。 ●最近1か月以内に病気にかかったお子さんは、接種できない場合がありますので、主治医にご相談ください。				



麻疹(はしか)にかからないために



新聞やマスコミなどで「はしか」の記事を目にされた方も多いと思います。県内でも昨年初より成人麻疹(はしか)が発生し、今春から初夏にかけての流行が懸念されています。はしかは、一度かかれば免疫ができるので、かかった方がよいと思われている方もいるかもしれませんが、しかし、はしかは伝染力が強く、合併症を伴う重い感染症で、現在でも年間約80人の子どもが命を落としています。

はしかを予防するために、どのようなことに気をつければよいのでしょうか。

★はしかってどんな病気？

麻疹ウイルスの飛沫感染によって起こる病気です。約10日間の潜伏期を経て、鼻水、咳、目の充血、めやになどと共に38度以上の発熱が3〜4日間続き、いったん解熱するかに見えるものの再び高熱となり全身に発疹が現れて高熱が4〜5日間続きます。感染してから回復するまでの約1か月の間は免疫不全状態となるため二次感染や合併症に注意が必要です。主な合併症としては肺炎・中耳炎・脳炎があり、全体の3割にみられます。入院を要するケースも大人の場合半数、子どもでも約一割に達し、重篤な感染症と言えます。

★はしかにかかりやすいのは？

1歳代が最も多く、次いで6〜11か月、2歳

代の順で、2歳以下の幼児が全体の約半数を占めています。また、現在発生している成人麻疹については20〜30歳代の発生が多くなっています。これらの方のほとんどは、麻疹ワクチン未接種であり、予防接種が重要となっています。

★はしかを予防するために

はしかは感染力の強い疾患で、感染するとほぼ100%の方に発症すると言われています。麻疹ウイルスに対する特別な治療法はなく、予防するためには「予防接種」を受けることが何より有効な手段です。麻疹ワクチンの接種による抗体陽転率は95%以上とされており、接種した方のほとんどが抗体をもつことができます。

★予防接種を受けましょう。

◎乳幼児は1歳の誕生日がきたら、必ず早めに予防接種を受けましょう。なお、生後12か月以上90か月未満の乳幼児は、松前町で発行している予防接種手帳についている接種券にて無料で受けることができます。

◎成人の方も、麻疹の予防接種が未接種の方や、多くの子どもと接する仕事をされる方は、予防接種を受けることをお勧めします。かかりつけ医にご相談ください。